

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト（大津地区）

事業実施者：大津漁業協同組合

使用船舶名：第21不動丸船団（網船199トン）

支援期間：平成25年4月12日～平成28年4月11日

（大中型まき網漁業）

（取組の内容）

- 船団の合理化：1船団3隻体制を2隻体制に縮減。船団のスリム化により、生産コストを削減
- 資源管理の推進：探索船の削減により従来漁獲量10,533トン/年（震災前5年平均）の10%を削減
- 省コスト化：【人件費】探索船削減により従来人員38名を33名に縮減
【燃油消費】探索船削減により年間燃油消費量を26kl削減
【修繕費】2隻体制で63百万円/年を削減
【氷代】漁獲量の10%削減に伴い、氷使用量も従来より10%削減（4,300トン/年）
- 網船の安全・居住性の向上：新網船の十分な復原性、居住環境、作業スペースを確保
- 復旧復興への対応：地元大津港の適正水揚や加工・流通業等の関連産業と連携した。地産地消に取り組み、地域全体の復興に協力する。



（事業の成果）

- 網船の操業性能の向上及び高性能作業艇の活用により支障なく船団を縮減した。
- 水揚量・水揚高（2年平均11,896トン・1,139百万円）ともに、計画（9,480トン、673百万円）をそれぞれ25%、69%上回った。**償却前利益は345百万円（2年平均）で、次世代船建造が十分可能との結果を得た。**
- 操業の習熟度の向上により、33名体制で操業できることを実証した。
燃油使用量（平均1,153kl/年）は、計画（1,040kl/年）を上回った。
氷使用量（4,791トン、2年平均）は計画（4,300トン）を上回ったが、氷使用率[氷使用量/水揚量]（40%、2年平均）は計画（45%）を下回った。
- 新網船となり復原性と安全・居住性に優れた環境整備を整えた。